

## 第十六章 放射線科プログラム

1. 放射線科は3大部門である
  - 1 放射線画像診断、2 放射線治療、3 核医学診断のうち主としてIVRを含む放射線画像診断を中心に研修する。
2. 短期研修（3ヶ月）の一般目標：
  - 1) CTを中心として画像の読影と診断を実際にレポートを作成することで学ぶ。併せて検査目的に対する適切な診断Modalityの選択や検査方法の指示等について研修する。
  - 2) CTで画像診断に関して導入部分を研修したあと、MRI、PET/CT、RIに関しても時間の許す限り症例を見るように努める。
  - 3) 造影剤の副作用に関する知識を得て、実際に副作用症例に対応する。
  - 4) 血管造影と動注や塞栓術など、心、中枢神経系をのぞく血管系IVRを行う。実際の血管造影手技を学び、血管解剖や所見の取り方などを学習する。また動注や塞栓術に関しての適応や方法を学ぶ。
  - 5) CTや超音波ガイド下での生検や腫瘍ドレナージなど非血管系IVRを実際の手技を見てその方法を学ぶ。また画像からこれらのIVRの適応症例の拾い上げや方法の選択などに関して研修する。
  - 6) 各科とのカンファレンスや院外の勉強会等に積極的に参加する。
  - 7) 画像診断と実際の臨床経過や手術所見等との確認を行う。
  - 8) 放射線技師や看護師などとの円滑なコミュニケーションを取り、日常診療、検査をチームワークとして行っていることを学ぶ。

※平成19年度から放射線科修練施設及びIVR修練施設となった。